

ウォルター・フッド氏のプロジェクト

The New de Young Museum

サ ンフランシスコ、ゴールデン・ゲート・パークにある美術館のためのランドスケープ。人工的に造られた地形を利用して、建物をアートと公園でつなぐことにより人々が憩う空間を構成した。

Splash Pad Park

ス プラッシュ・パッド公園は、もともとあったレイク・メリット公園の一部としてデザインされた。高速道路によって隣接する公園から切り離されていることから、その向こうに続く歴史的なグランド・レイク・シアターとレイク・メリット公園の前奏としての役割を果たすよう構成している。新しいデザインはプロムナードにより隣接の公園とのつながりを強調するように工夫され、遊歩道が高速道路の下を通過して近所の商店街にまで人々を誘導するようになっている。

右上2点／The New de Young Museum
右下2点／Splash Pad Park Photo by HOOD Design



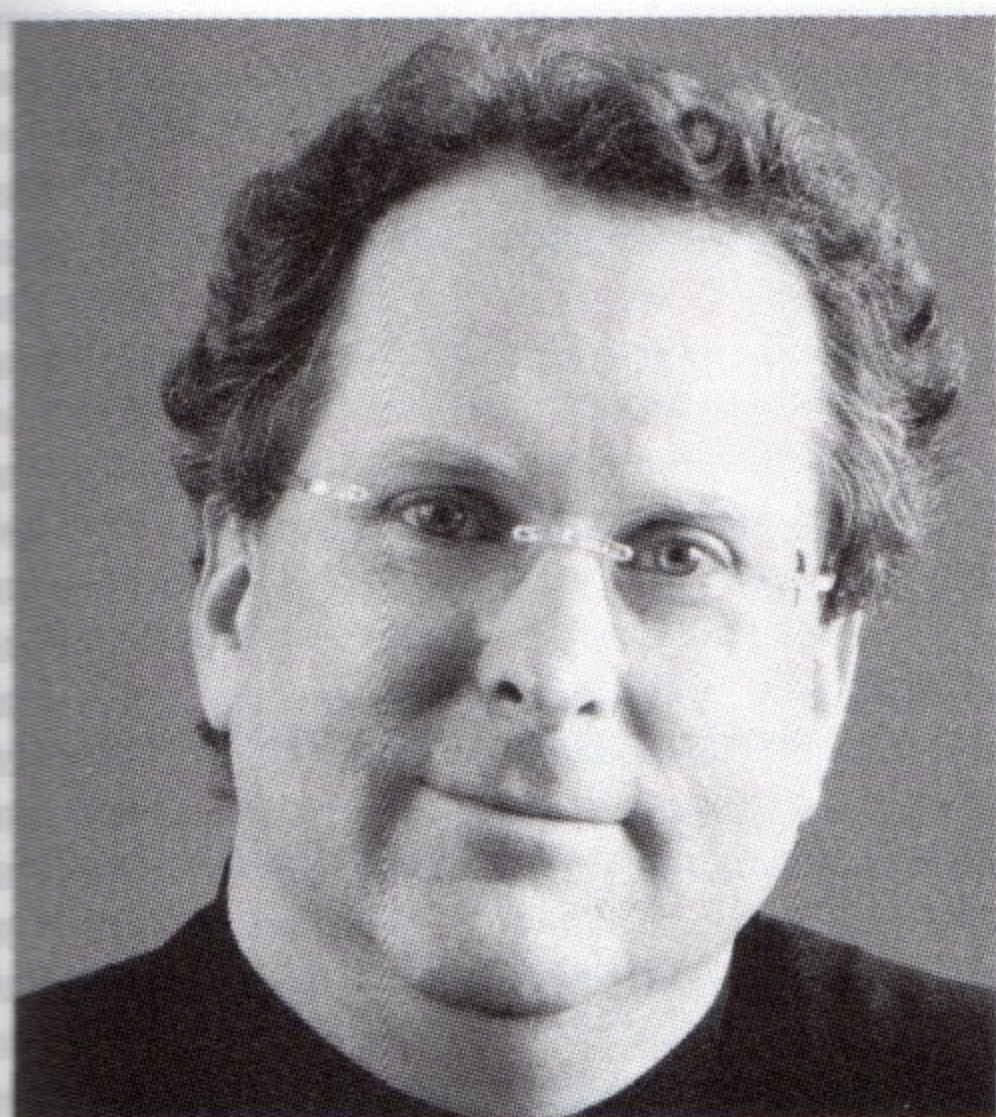
ランドスケープ・アーキテクト事務所の紹介 Inside the LA Studio: Peter Lindsay Schaudt, Hoerr Schaudt Landscape Architects

ス チャッド (Schaud) 氏はハーバードでランドスケープのマスター課程を卒業し、ダン・カイリーの下で仕事をしながら、カイリーのランドスケープにおけるモダニズムに影響を受けた。彼の事務所はシカゴを拠点とし、15年の歴史を持ち数多くの賞を受けている。地元でのコネクションを大切に、地域社会に対して熱心さがうかがわれる。2005年にイリノイ州支部で賞を受けたノース・バーンハム公園、ソルジャー・フィールド、NFL スタジアム開発のプロジェクト

トをここでは紹介したい。

ダ ニエル・バーンハム氏が1909年に計画したミシガン湖畔の公園に、シカゴ・ベアーズ・チームのスタジアムの駐車場の需要に伴うリニューアル、17エーカーの新たな公園敷地、屋上緑化された2つの駐車場が計画された。なだらかな丘となった地形がダイナミックに弧を描きながらそれぞれの機能空間を形づくっている。

チ ルドレンズ・ガーデンはその全体の一部で、立体的なオウム貝の形からインスピレーションを受けて構成されている。お椀のように掘り下げられたランドフォームが居心地のよい空間を提供する。このガーデンは水の地球、登る地球、岩の地球の三つが設置されている。入口に置かれている地球は文化のシンボルでトンネルになっている。ブロンズの地球はシカゴの実際の緯度、経度に合わせて設置された。



Peter Lindsay Schaudt



左上／チルドレンズ・ガーデンの俯瞰写真。Photo by Larry Okrent

左下／チルドレンズ・ガーデンのクローズアップ。Photo by Martin Konopacki

右／プロジェクトの俯瞰写真。Photo by Larry Okrent

